



儒学の展開に関連する問題

共通テスト

第1問 問6

藤田：次の資料は、顔之推が6世紀後半に著した『顔氏家訓』という書物の一節で、彼が見た分裂時代の女性の境遇について述べています。

資料

南方の女性は、ほとんど社交をしない。婚姻を結んだ家同士なのに、十数年経っても互いに顔を合わせたことがなく、ただ使者を送って贈り物をし、挨拶を交わすだけで済ませるといふことさえある。

これに対し、北方の習慣では、家もつばら女性によって維持される。彼女らは訴訟を起こして是非を争い、有力者の家を訪れては頼み込みをする。街路は彼女たちが乗った車であふれ、役所は着飾った彼女たちで混雑する。こうして彼女たちは息子に代わって官職を求め、夫のためにその不遇を訴える。これらは、平城に都が置かれていた時代からの習わしであろうか。

山口：中国には、「牝鶏が朝に鳴く」ということわざがあり、女性が国や家の事に口出しするのは禁忌であったと聞きます。資料の後半に書かれているように、女性が活発な状況が現れた背景は、いったい何でしょうか。

藤田：著者の推測に基づくなら、**イ**に由来すると考えられます。

中村：あっ！ ひょっとして、この時代の北方の状況が、中国に女性皇帝が出現する背景となったのでしょうか。

教授：中村さんがそのように考える根拠は何ですか。

中村：ええと、それは**ウ**からです。

教授：ほう、よく知っていますね。

山口：資料にあるような女性の活発さが、後に失われてしまうのはなぜでしょうか。

藤田：①この時代以降の儒学の普及とともに、資料中の南方の女性のような振る舞いが模範的とされていったためと考えられます。

問6 下線部①について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **6**

- ① 世俗を超越した清談が流行した。
- ② 董仲舒の提案により、儒学が官学とされた。
- ③ 寇謙之が教団を作り、仏教に対抗した。
- ④ 『五経正義』が編纂された。

河合塾

冬期・直前講習／突破シリーズ
共通テスト本番突破テスト世界史 B 第3問 問2

問2 敦煌に中国王朝の支配がおよぶようになった前2世紀には、中国王朝の文化政策のうえでも変化が起こっていた。その政策の変化あ・いと、その変化について説明した文W～Zとの組合せとして正しいものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 **18**

政策の変化

あ 儒学の官学化 い 道教の国教化

その変化についての説明

W 董仲舒が当時の皇帝に採用を献策した。

X 採用された思想は、以前の王朝では弾圧されることがあった。

Y 寇謙之が当時の皇帝の信任を得たことが背景にあった。

Z 当時の王朝で『五経正義』が編纂された。

- ① あ－W ② あ－Y ③ あ－Z
- ④ い－W ⑤ い－X ⑥ い－Y

共通テストでは、「6世紀」以降の儒学について出題された。冬期・直前講習／突破シリーズ「共通テスト本番突破テスト」では、前2世紀における中国王朝の文化政策とその変化を問う問題を出題。いずれも、それぞれの選択肢が儒学に関わるものかどうかの判断をしたのち、儒学に関わると判断した選択肢については、いつの時代に関わる内容かをさらに判断する必要がある。思考するプロセスが同じであるといえよう。受験生が苦手としがちな文化史でもあり、問題の選択肢が似ている点においても、この講座を受けた受講生にとって有利であった。